

入門者のための

Frequently Asked Question

FAQ

このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあと思っている疑問、困っていることなどありましたら
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

A. このような目的のために、telnetx というソフトウェアが用意されています。今のところUNIX上でしか利用できませんが、このコマンドを用いることにより、パソコン通信へファイルをアップロードしたり、パソコン通信からプログラムをダウンロードしたりすることができます。ftp://ftp.iij.ad.jp/pub/network/telnetx などから入手できますから、インストールしておくといいいでしょう。

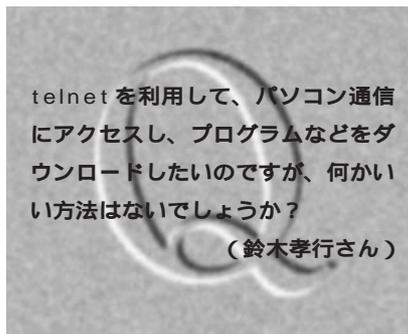
基本的な利用方法は、通常のtelnetとまったく同じです。したがって、たとえばニフティサーブを利用する場合には、

```
% telnetx r2.niftyserve.or.jp
Trying 192.47.24.133...
Connected to r2.niftyserve.or.jp.
```

のように利用することになります。

プログラムをダウンロードするためには、telnetx のコマンドモードを利用します。たとえば、ニフティサーブのライブラリからプログラムをダウンロードする場合は、ライブラリからファイルを選択し、ダウンロード開始の状態にしてください(図1)。

この状態で、telnetx のコマンドモードに移行するために、Ctrl -] (コントロールキーを押しながら「]」キーを押す)と入力します。すると、



```
telnetx>
```

というtelnetx のコマンドモードを意味するプロンプトが表示されます。ここで、ダウンロードのためのコマンドを入力しますが、ここではダウンロード用のプロトコルとしてBPlus を選択していますので、bp と入力してください。図2のように表示されて、ダウンロードが完了します。このままでは、まだコマンドモードのままですので、リターンキーを入力し、通常の状態に戻せば、通信を再開することができます。

標準のtelnetx で利用できるアップロード / ダウンロード用のプロトコルとしては、BPlus 以外にZMODEM、Quick-VAN などが用意されており、これらでほとんどのパソコン通信に対応できると思います。また、その他のプロトコルについても容易に

組み込むことができるようになっています。たとえば、アスキーネットで利用されているTransItなどを組み込むことができたという報告があります。

図1 ダウンロード開始の状態

```
.....
ダウンロード・ファイル名 : SJET.LZH
処理 (1:ダウンロード E:終了)
> 1
プロトコル (1:XMODEM 2:BPLUS E:終了)
: 2
ダウンロードファイルを格納する準備をしてください (BPLUS)
1756 バイトあります
ファイル名 (改行のみで終了)
: sjet.lzh
- ダウンロード開始 -
.....
```

図2 telnetx によるダウンロードの様子

```
telnetx> bp
bp v1.14
Copyright (c) 1993 Katsuaki Suzuki
<katsu@wide.ad.jp>
Takashi Taniguchi <tani@wide.ad.jp>
Thanks to WIDE Project WPNC Working Group

The University of Electro
Communications All rights reserved.
Direction: Downloading
Type: Binary
File: sjet.lzh
Filesize:1756 Data (1756) Rate (512)
Elapsed (2) RemTime (1)
Message: *** Transfer Complete ***

telnetx>
.....
```

回答者 砂原秀樹

奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
電気通信大学情報工学科助教授(併任)
WIDEプロジェクト・ボードメンバー。
日本でのインターネット普及のために
研究と後輩の指導に努めている。

A. ネットワークを利用していると、それは無料ではなく、少なからぬ費用が発生しているんだという意識は非常に大切だと思います。しかし、インターネットでは海外の情報にアクセスするからといって国際電話をかける必要はないのです。

ダイヤルアップIPを利用する場合でも、一番近くのネットワークオペレーションセンターに電話をすれば、そこから世界中の情報にアクセスできるのです。

各ネットワークサービスプロバイダーの料金体系を見るとあきらかなように、国内の情報にアクセスしているからいくら、国

インターネットマガジンではよく海外の情報が紹介されていますが、海外のコンピュータにつながると、電話料金が大変だと思います。私にはとてもアクセスできませんが、みんな気軽にアクセスしているものなのでしょうか。(小林久代さん)

外の情報にアクセスするといくらといった区別はありません。つまり、国内や国外といった違いを意識することなく利用できるようにするために、各ネットワークサービス

には、そのデータを用いるようにしています。WWWブラウザの表示で、文字が反転したり、色が変わったりして表示されているのは、該当する情報がキャッシュに保存されているか否かを示しているのです。

そのため、前に一度選択したところのあるリンクは、後日見ても「見たことのある」リンクとして表示されるのです。

しかし、アクセスしたところのある情報を無限に保存しておくわけにはいきませんから、キャッシュのために利用できるディスク容量を設定しておき、それを超えた場合には、あまり参照されない情報から順番に削除されるようになっているのです。

たとえば、Netscapeの場合には、メニューOptionsの中のPreferencesを指定し、Cache and Networkという項目で情報を保存しておく場所とその大きさを指定するようになっています(図3)。ですから、自分のコンピュータに保存されている情報を直接参照したい場合には、ここで指定し

プロバイダーは、国内での通信費用だけでなく、国外への通信費用も含めて料金を決めています。

したがって、同じ料金を取られるならほとんど海外の情報も利用しなければ損ということになるわけです。

ただし、逆にインターネットは人類の共有財産であるという考え方もあります。せっかく利用できるのですから、海外の情報を活用しないのは損だと思いますが、同じ情報が国内にあるにもかかわらず、海外を参照するという無駄は避けるべきでしょう。

WWWブラウザでネットサーフィンをしていて、一度選択したところのあるリンク先は、後日見ても文字が反転して見えるのはなぜでしょう。「一度見た」という情報は、誰が(何が)覚えているのですか?

(戸野 健さん)

A. WWWで提供される情報にはテキストだけでなく画像なども含まれており、非常に大きなサイズになってしまいます。ところが、ホームページなどのように何度も参照するページまでも、毎回ネットワークを経由して情報を得ていたのでは、大変面倒なことになってしまいます。

そこで、多くのWWWブラウザでは、キャッシュと呼ばれるメカニズムが組み込んであり、一度アクセスした情報を保存しておき、同じページがアクセスされた場合

たディレクトリ(Macではフォルダ)を見てもいいでしょう(図4)。

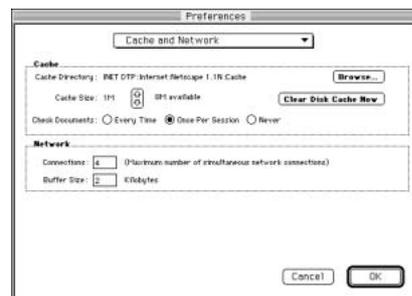


図3 Netscapeでのキャッシュの設定(Mac版)

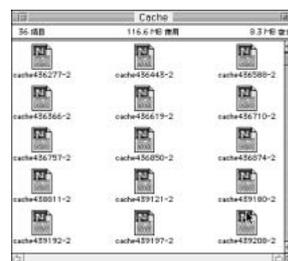
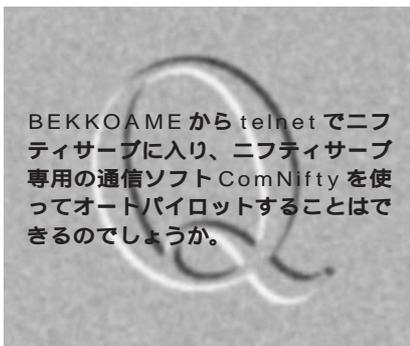


図4 キャッシュフォルダの様子

A. WWWの世界を放浪していると、素敵な絵がたくさんあつたりして、その絵を保存して利用したくなりますね。Netscapeの場合、これは非常に簡単で、マウスカーソルで保存したい画像を指し、Macの場合にはマウスボタンを、WindowsやUNIXの場合には、マウスの右ボタンを押すと、メニューが表示されます。その中から、「Save this Image As」という項目を選択すると、画像を格納するファイル名を指定するためのウィンドウが表示されます。あとは、適当にファイル名を指定し、「OK」ボタンを押すと、画像は指定したファイルに保存されます。

このとき注意しなければならないのは、保存される画像の形式は、WWWサーバー側で保存されている形式に従うということ



BEKKOAME から telnet でニフティサーブに入り、ニフティサーブ専用の通信ソフト ComNifty を使ってオートパイロットすることはできるのでしょうか。

A. 先月号で取り上げた、パソコン通信のオートパイロットソフトウェアをインターネットのtelnetを経由して利用できないかという質問に対して「できない」と回答しましたが、工夫をすると利用可能になるというご指摘を読者の方からいただきました。

ComNifty (Mac用) を利用する場合に

私は、インターネットについては入門者なのですが、WWWサーバーの画面の保存方法について教えていただきたいのです。Macで、Netscape 1.1b3を使用し、WWWサーバーのホームページをTIFF形式で保存してページメーカーに貼り付けて編集したいのですが、可能なのでしょうか。可能であれば、どのようにすればいいのでしょうか。

(梁 理恵さん)

です。ご質問ではTIFF形式で利用したいということですが、画像がWWWサーバーにGIF形式で格納されている場合には、GIF形式でしか保存することができないわけです。ですから、自分が利用したい形式でなかった場合には、適当な変換ソフトウ

は、PortConnectorというソフトウェアとVersaTerm Telnet Tool、またはTCPackというソフトウェアを利用した事例が、ニフティサーブのインターネットフォーラムの2番ライブラリに登録されています。参考にしてください。

Windowsの場合には、COMtというソフトウェアを利用することができます。このソフトウェアは、毎号インターネットマガジンの付録CD-ROMに収録されています。

これらのソフトウェアは、図5に示すように、telnetで確立された接続をモデムデバイスのように見せかけるように動作するため、オートパイロットソフトウェアからは通常のもデムを利用して見えます。そのため、オートパイロットソフトウェア側はほとんど変更をすることなく

エアを用いて必要な形式に変換しなければなりません。

WWWサーバー側での格納形式は、ファイル名を指定するときに自動的に選択されるファイル名の拡張子(.gifや.tiffなど)が参考になります。

もう1つ注意しなければならないことは、WWWで公開されているからといって、そこに表示される画像を自由に利用していいというわけではないという点です。ほとんどの場合、WWWで見ることのできる画像は、それを公開している組織または人が著作権を保有しています。したがって、それを保存し、編集などをして別の目的に利用する場合には、必ず、著作権を持っている組織または人に許可を得るようにしてください。

利用できるわけですが(電話番号の設定など多少設定の変更が必要)ただし、オートパイロットソフトウェアが、直接モデムを制御している場合などには、正常に動作しない場合もありますから注意してください。

ここでは、COMtでのパソコン通信ソフトの利用方法を紹介することにします。

COMtのアーカイブファイルを展開した後、Windows上のプログラムマネージャで「コマンド名を指定して実行」を選択してinstall.exeを実行し、COMtのインストールを行います。インストールが完了すると、図6に示すようなウィンドウが表示され、どのCOMデバイスもCOMtで利用するかを問い合わせてきます。ここで、利用したいCOMデバイスをクリックします。このときインターネット用のソフトウェアで利用するCOMデバイスと衝突が発生しない

入門者のための FAQ

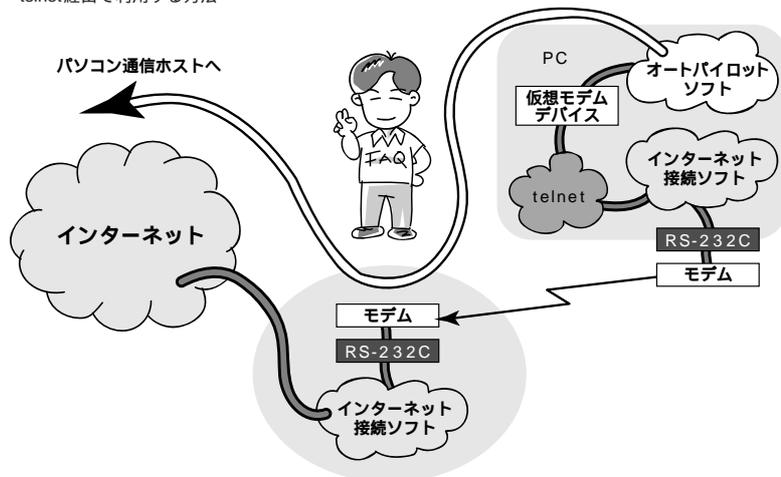
ように注意してください。ここでは「COM2:」をCOMtデバイスとします。OKボタンを押し、Windowsを再起動すると、COM2:がCOMtデバイスとして利用できるようになります。

COM2:は、仮想的なモデムが接続されたシリアルデバイスとして動作し、電話番号の代わりに、ホスト名(ドメイン名)やIPアドレスを指定することでtelnet経由での接続が可能になります。

図7はCCT/Winを利用する場合の設定で、電話番号としてホスト名が指定されていることに注意してください。通信速度は設定できる最大としておくのがいいでしょう。モデムの設定(図8)では、COM2:を利用するよう指定している点に注意してください。オートログインの設定などは、通常の場合と同様の設定が利用できます。

図9が、COMtを用いてtelnet経由でパソコン通信(アスキーネット)を利用している様子です。

図5 パソコン通信用オートパイロットソフトをtelnet経由で利用する方法



ネットワークサービスプロバイダ
ダイヤルアップIP接続ホスト

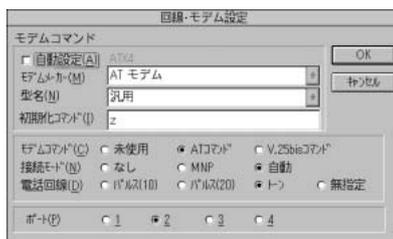


図6 COMtの設定



図7 CCT/Winでの設定

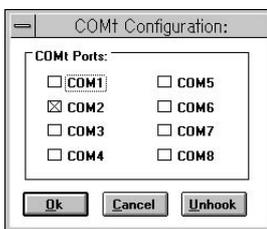


図8 CCT/Winでのモデム設定

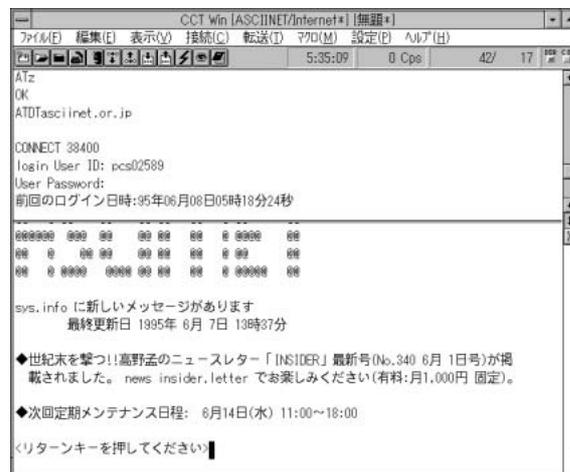


図9 CCT/Winでのアクセスの様子



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp